



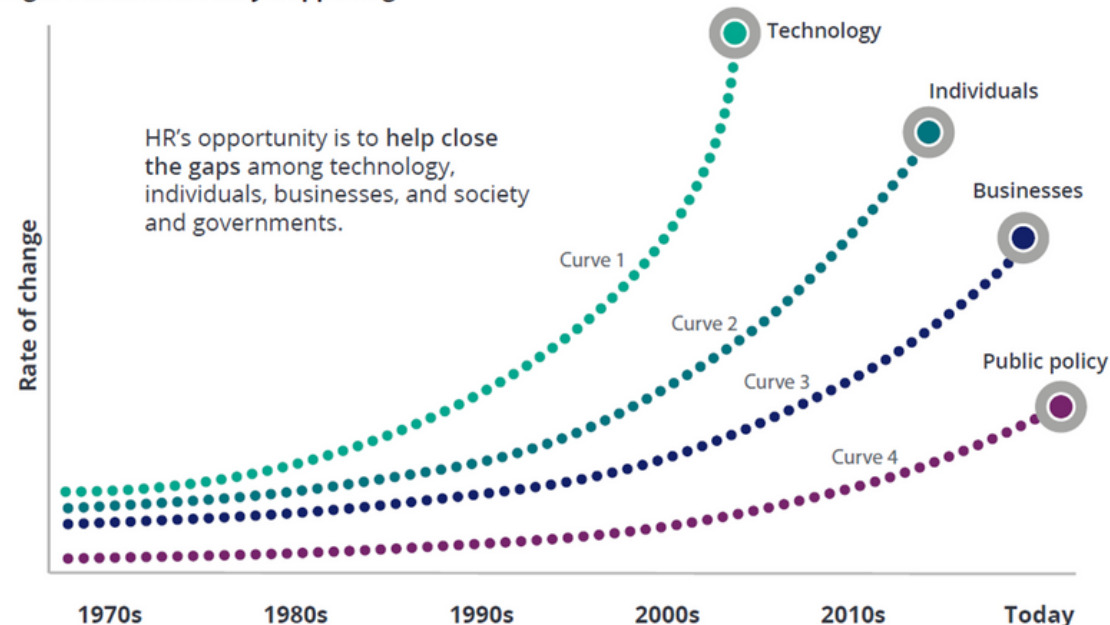
関大リブランディング戦略

Eグループ

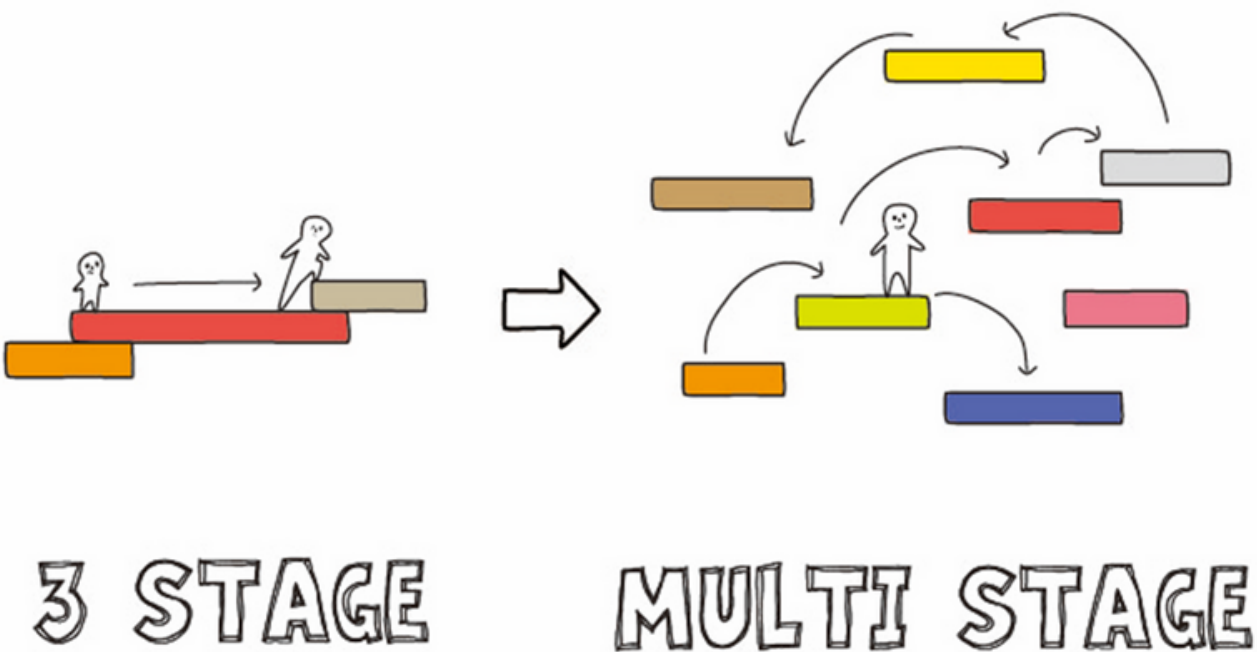


大学を取り巻く現状

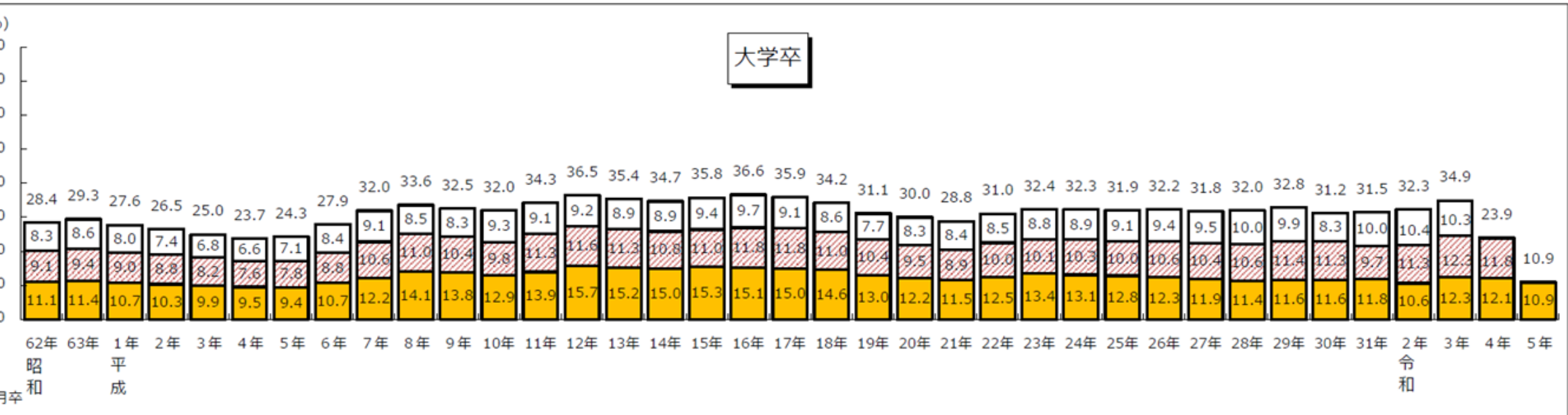
Figure 2. What is really happening



新しい時代

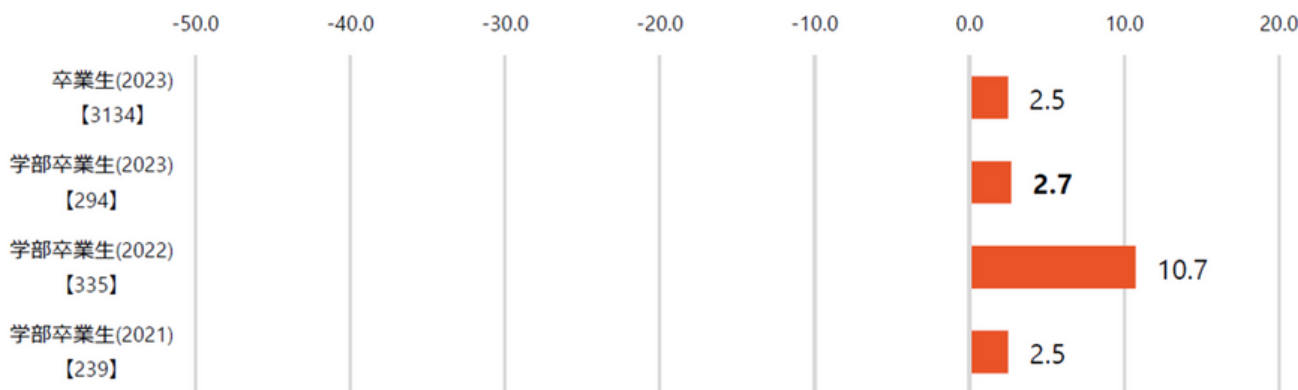


100年時代



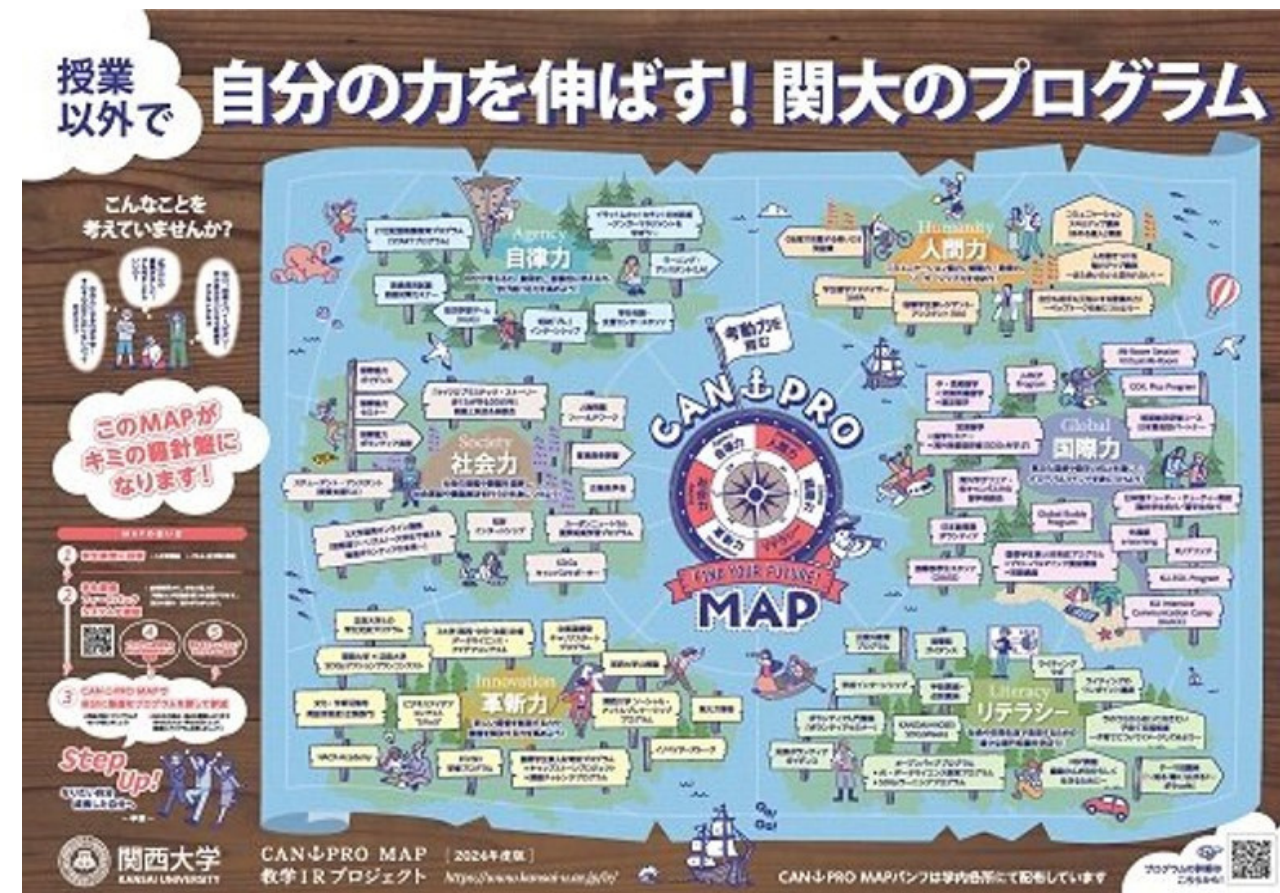
就職後3年以内離職率の推移: 厚生労働省

■ NPS



2023卒業時調査

スロー卒業 (急がば回れ)



関大生の新たな
挑戦と成長の物語
ギャップイヤー

学生が感じる既存の休学制度への不安

- ①利用するハードルの高さ
- ②休学自体にネガティブなイメージ

ギャップイヤー制度の概要

ギャップイヤー制度

を提案します！



ギャップイヤー制度とは？

ギャップイヤー制度は、学生が学業を一時中断して、自由な目的で時間を活用するための仕組みです。

特に、1年次修了後と2年次開始までの間に1年間の休学期間を設ける形が一般的となっています。

この期間中、学生は留学、ボランティア活動、インターンシップなどを通じて自己成長や視野の拡大を図ることができます。

ギャップパイヤー制度の特色



ギャップパイヤー制度を活用することで・・・



自己成長のための時間確保

- 新しいスキルの習得（語学、ITスキルなど）
- 自己認識の向上（自分の強みや弱みを理解する）



キャリア探索のための実体験

- インターンシップ: 実際の職場環境を体験し、自分に適した業界や職種を探る。
- プロジェクト参加: 興味のある分野でプロジェクトを立ち上げ、実現可能性を試す。
- 海外での挑戦: 異文化の中での挑戦が柔軟性や問題解決能力を養う。



社会貢献意識の育成

- 多様性の理解: 異なる価値観や文化を知り、多角的な視点を持つ。
- 社会的責任感の醸成: 自分が社会の一員であることを実感し、積極的な貢献を目指す。

ギャップイヤー制度活用の流れ



オリエンテーション

ギャップイヤーを開始する前に、制度の概要や注意点、活動計画の立て方などについて説明するオリエンテーションを受けます。この場で必要な手続きや心構えについても確認します。



目標設定

ギャップイヤーを有意義なものにするため、具体的な目標を設定します。例えば、スキルの習得、異文化理解の深化、キャリア選択の明確化などが挙げられます。これにより、活動内容を効果的に計画することが可能となります。



各プログラムへ参加

ギャップイヤー中には、興味や目標に応じて選択したプログラムに参加します。これには、職業体験や専門的なプロジェクトへの従事、語学留学など、多岐にわたる選択肢があります。ここでは、現在、関西大学にあるプログラムを活用する事を想定しています。



報告書の作成

ギャップイヤーの終了後、自身の活動内容や成果、学びを報告書にまとめます。この報告書は、自分の成長を振り返るとともに、他の学生や教職員への共有の機会としても活用されます。



学業へ復帰

ギャップイヤーで得た経験やスキルを活かし、学業に復帰します。新たな視点やキャリア設計などの目標をもって学ぶことで、より充実した大学生生活を送ることが期待されます。

ギャップイヤー制度のメリット



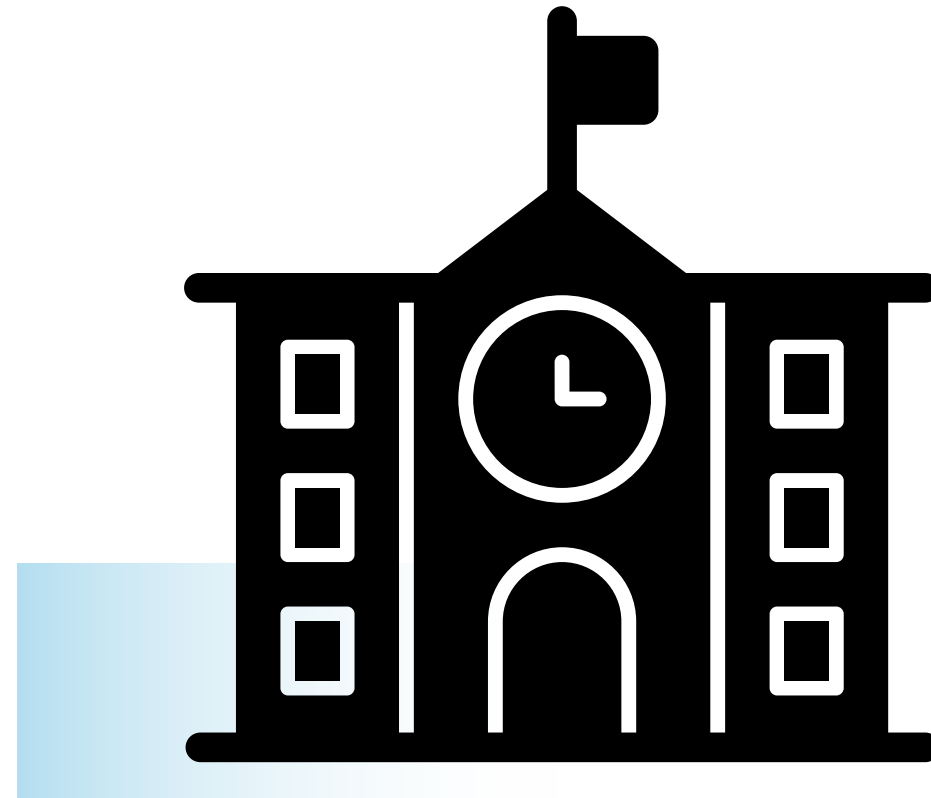
学生

【自己発見の時間】

学業や社会から一時的に離れることで自分の価値観や目標を見つめ直し、将来の方向性を明確化できる。

【成長の機会】

実社会での経験や失敗を通じて自己成長や課題解決能力を養う。



大学

【他大学との差別化】

ギャップイヤー制度の導入により独自の教育支援体制を打ち出し、魅力的な進学先として注目を集められる。

【学生の満足度向上】

多様な進路や学びを支援することで、学生からの評価が向上し、大学のブランド価値も高まる。



企業

【成熟した人材の獲得】

実体験を積んだ学生は、働く理由や目的を明確にしており、主体性と社会理解を持った優秀な人材となる。

【離職リスクの低下】

自分のキャリアビジョンを確立しているため、早期退職の可能性が減少する。

ギャップイヤー制度の先にあるもの

学生一人ひとりが、
自分の人生を主体的に歩むための
大学生活を提供すること

ギャップイヤーは単なる「**制度**」ではなく、
一人ひとりの人生の新しい物語を描くための
【きっかけ】です！

その物語の始まりを、
関西大学の舞台で作りませんか？

